



令和7年度沖縄県青少年交流体験事業 募集案内

主催：(公社)沖縄県青少年育成県民会議
共催：沖縄県
沖縄県教育委員会

令和7年度沖縄県青少年フレンドシップイン九州団員募集要項

事業の概要

次代を担う青少年同士の交流・体験活動を通して友情や生きる力を育むとともに、規律ある共同生活を通して自主性及び協調性を養う事を目的に、「沖縄県青少年フレンドシップイン九州」を実施する。

- 日程 令和7年7月29日(火)～8月2日(土) (4泊5日)
- 目的地 熊本県
- 参加人員及び団体構成
 - 参加人員 160人
(内訳) ・一般団員 県内に在住する小学5・6年生 108人
・ 県内に在住する中学生(副班長) 18人
・ 班 長 県内に在住する高校生 18人
・ 役 職 員 団長1人、事務局長1人、スタッフ14人(内看護師3名)
 - 団 構 成 18班〔1班8人＝小学生6人、中学生(副班長)1人、高校生(班長)1人で編成する〕
- 活動内容

① 事前研修(対象：全団員/離島団員は別日に ZOOM での参加も可)

	日 時	活 動 内 容	場 所	そ の 他
宿泊研修	7月12日(土)13:00 集合 7月13日(日)12:00 解散	事業概要説明、団員の心得、レクリエーション、体験学習準備、郷土の歴史・文化についての学習	県立 石川青少年の家	研修会会場 までは保護者で 送迎する

※集合時間と解散時間は駐車場の関係があり、事務局で2グループに分けさせていただきます。時間については追ってご連絡いたします。

② 事前研修予備日(対象：7/12の事前研修会に参加できなかった団員及び離島地区団員)

	日 時	活 動 内 容	場 所
離島+補充者	7/19(土) 13:00～16:00	事業概要説明、団員の心得、レクリエーション、体験学習準備 郷土の歴史・文化についての学習	沖縄県三重城 合同庁舎

③ 本研修日程(予定)

月 日	交通機関	活 動 内 容	宿 泊
1 日 目 7月29日(火)	航空機 バ ス	(那覇空港 8:00～8:30 頃集合予定) ・ 結団式 那覇空港～福岡空港	国立阿蘇青少年 交流の家(4泊)
2 日 目 7月30日(水)	バ ス	・ 震災ミュージアム見学 ・ 自然体験(登山その他)	
3 日 目 7月31日(木)	バ ス	・ 交歓交流会(熊本県児童生徒) ・ 熊本城見学・街歩き探検	
4 日 目 8月1日(金)	徒 歩	・ レクリエーション・研修のまとめ ・ お別れセレモニー	
5 日 目 8月2日(土)	バ ス 航空機	・ 買い物・解団式 ・ 福岡空港～那覇空港(17:00～18:00 頃到着予定)	

④ 事後研修

月 日	活 動 内 容	場 所	そ の 他
8月30日(土) 13:00～17:00	・ 本研修のまとめ学習(班ごとにレポートを作成し事業の目的と自身の成長を確認する)	県立石川青少年の家	研修会会場までは 保護者で送迎する

※活動内容は都合により変更する場合があります。

1 応募資格 一般団員の応募資格は次のとおりとする

- (1) 保護者の意向ではなく、本人が研修参加を望んでいる者。
- (2) 沖縄県内に在住する小学5年生・6年生及び中学生。
- (3) 心身ともに健康で、規律ある団体生活及び団体行動ができる者。
- (4) これまでに沖縄県青少年育成県民会議が主催する類似の事業に参加したことがない者。
- (5) 事業として本研修など SNS に逐次アップします。また、メディアに掲載される場合もございます。
- (6) 研修に必要なしおり等を作成するにあたり、氏名・学校名・学年・市町村名の掲載に同意いただける方。
- (7) **事前研修、本研修、事後研修すべてに参加が可能な者。**(体調不良を除く)

なお、学校行事等で全日の参加が厳しい場合は途中参加などの対応も可能です。

※中学生(副班長)は、7/12、13事前研修会の他、6/29(日)沖縄県三重城合同庁舎にて午後より班長・副班長研修を行いますので、この研修に参加ができる人。

2 応募方法及び募集期間・当選発表について

- (1) **応募方法** WEBでの申し込み(電話・fax・メール等での受付不可)
QRコード↓ を読み取り、応募フォームに記入してください。



<参考：R6年度 小学生 倍率 3.1 倍 / 中学生 倍率 3.5 倍>

(2) 当選発表

当選発表は令和7年6月上旬までに当選された方のみはがきまたは封書にて通知する。

- (3) 応募は1人1回限りとする。

(4) 応募期間

令和7年4月15日(火) ~ 令和7年5月29日(木) 17時締切

3 選考 一般団員は次のとおり選考する。

- (1) 抽選による選考 116人

応募者多数の場合は抽選により選考する。

抽選による選考は、主催者において応募状況を勘案して第三者の立ち会いのもとに抽選を行う。

- (2) 推薦による選考

①県内の青少年団体が推薦する者(県子ども会、ボーイスカウト県連盟、ガールスカウト県連盟)

②福祉関係機関・団体が推薦する者。

(県内児童養護施設、県母子寡婦福祉連合会、県交通遺児育成会)

4 内定及び決定

- (1) 抽選又は、推薦により選考を経た者を一般団員内定者とし、本人及び推薦者に通知する。
- (2) 一般団員内定者は事前研修を良好な成績で終了したときに、正式に一般団員として決定する。
- (3) 正式に一般団員として決定し、参加費を納めた者が参加を辞退しようとするときには、すみやかに電話等により申し出ること。この場合、本研修終了後、参加費からすでにかかった経費を差し引いた金額を返金する。また、振込手数料は、辞退者負担とする。
令和7年6月27日(金)以降に辞退を申し出たものには参加費を返金しないことがある。

5 経 費

- (1) 一般団員（小中学生）は、60,000 円の参加費用及び 435 円の振込手数料を負担する。（事前研修の青少年の家の宿泊・食事代・保険料及び本研修の宿泊・食事・交通費などの諸経費を含む）

※離島団員の離島⇄那覇空港間の航空券代は、上記参加費用には含まれておりません。

- (2) 事前研修、本研修、事後研修への参加は、現地集合・解散のため、保護者の責任で送迎する。
- (3) 事前研修、本研修及び事後研修実施期間中に、台風、地震等の自然災害により生じた宿泊費、交通費等の超過経費については自己負担とする。
- (4) 事前研修、本研修及び事後研修の実施期間中に、団員の責任により生じた経費及び怪我、疫病等に要する経費は自己負担とする。

6 事業の中止

台風その他やむを得ない事情で、事業を中止した場合は、一般団員が払った負担金の中から、一般団員のためにすでに支払った経費を除いて返金する。

7 旅行傷害保険等

事前研修、本研修及び事後研修会に参加する際に、（公財）スポーツ安全協会のスポーツ安全保険（A1）に加入する。

また、本研修においては、上記スポーツ安全保険とは別に、国内旅行傷害保険および航空機欠航補償に加入する。

8 その他注意事項

- (1) できる限りアレルギー除去で対応はさせていただきますが、内容等によりましては安全を第一に考え、ご自身での食事持ち込みになります。ご了承ください。
- (2) 本研修では長距離を歩くプログラムもあります。（約 4～5 キロ）

9 申し込み・問い合わせ

事業の詳細については、下記までお問い合わせ下さい。

（公社）沖縄県青少年育成県民会議

住所：〒900-0036 那覇市西 3-11-1 三重城合同庁舎 4 階

TEL：098-861-3463 MAIL：nobinobi@mco.ne.jp

↓ホームページにも募集案内を UP しています



『フレンドシップイン九州に参加して』 小学6年 (女子)

私が、フレンドシップに参加した時の出発前の気持ちは、とても楽しみでしたが、同時にきんちょうしていました。ですが、班長や班員のみんなと話したりしているうちに最初に会った時より仲良くなれました。そして、決意のこばで宣言した内容は同じ班の人や他の班の人達とも仲良くなるということです。私は全員ではないけど6班と8班の人と仲良くなれました。

思い出に残ったことは、フレンドシップイン九州での出来事全部です。理由は注意されたり少しケンカをしたこともあったけど、それ以上に勉強になったし、楽しかったからです。

前はできなかったけどこの研修でできるようになった事は、知らない人に話しかけることです。

『私のフレンドシップイン九州』 中学2年 (男子)

ぼくは、フレンドシップイン九州をとおしていろいろなことを学びました。初めて7班の団員に会ったとききんちょうして何も話せなかったけど、班長のおかげでみんなと仲よくなれました。

思い出は、四日目の山のぼりです。山のぼりでは、班員のみんなや、9班の班長たちとはげまし合いながら、ぶじ頂上に登れたところがいい思い出になったと思いました。

そして、ほかの班員の人とも話しやすくなり人みしりをこくふくできるようになりました。自然の家の部屋では、十時まで楽しく話したり、自分たちで考えたあそびをあそんだりとても楽しい時間をすごしました。

今回の九州沖縄フレンドシップイン九州を体験して学んだ、オアシスを守り、人と人のかかわりをはずかしがらずせっていすることが大事だとゆうことがわかった。

初めてのフレンドシップできんちょうしていたけれど、やさしく声をかけてくれたフレンドシップの先生達や2号車の班長にとっても感謝しています。

ありがとうございます。

『彼らから学んだこと』 高校2年 (男子)

私の研修への参加動機は今思えば希薄だった。旅行に行けるという表面的なものが先走り、その他は二の次になっていた。しかし今回の経験は私の意識や物事の見方を大きく変えるものになった。

小学生を導きながら様々な活動を行うことは思いの外難しかった。単に予定を共有し先頭に立っていれば済む話ではなく、一筋縄ではいかない小学生との意思疎通に難航した。ただ、その中で事前研修、4泊5日の本研修と重ねていくごとに班員の素直さや純粋さが分かってきて自身も班員と同様に活動を純粋に楽しむことができて有意義な時間になった。

大人についても深く考えるきっかけとなった。私たち班長が如何に小学生をまとめるかと悪戦苦闘する中、このプロジェクトに携わる大人は小学生から高校生までと年齢も考え方も課題も違うような人を成長させることを考えてサポートやアドバイスをしていると気づいたときには、大人が考えていることのスケールの大きさとそれをこなす彼らに尊敬の念を抱いた。

私はフレンドシップ in 九州に小学生を導くことの大変さを学んだわけではない。思い通りに動かずトラブルを起こせばかりの子どもをなんとかまとめる構図が多かった現場でも大人、高校生、小中学生が互いに成長させあう環境が自然とつくられていてその様子に感無量だった。そういう意味でも「沖縄青少年フレンドシップイン九州」がこれからも長く続いて成長のサイクルのきっかけづくりとなって欲しいと強く思った。

非日常の経験は再び始まる日常にも活かしたい。多くの人と共生する社会においてそのすべての人が私に刺激を与え成長の糧となる。そんな心持でこれから少しずつ「大人」へと近づいていきたい。